令和８年１１月定例会一般質問発言通告表

発言順序	１０	議席番号	１２	氏名	小　松　快　造　　議員	１／１

発言項目	要旨	答弁者
１　環境問題について	地球温暖化対策として、脱炭素（ゼロカーボン）社会に向けて2050年までに、温室効果ガス排出ゼロを目指している今、当市では、2021年１月にゼロカーボンシティを宣言し、同年５月にＳＤＧｓ未来都市に選定されたことを踏まえて、2050年までの脱炭素社会の実現に向けた道筋を描いた「富士宮市ゼロカーボン推進戦略」を策定した。富士宮市公式ウェブサイト上にも、策定には環境省の補助制度を活用し、富士宮市の地域課題を解決するとともに、地域の魅力を向上させる地方創生につながる脱炭素の取組を推進するため、地域の成長戦略となる脱炭素の工程と具体策を示している、とあることから以下伺う。 (1)　庁内での推進体制はどのようになっているのか伺う。 (2)　富士宮市の地域課題を解決するとあるが、どのような課題があったのか伺う。 (3)　地域の成長戦略となる脱炭素の工程と具体策を示しているとあるが、具体的にはどのようなことか伺う。 (4)　本戦略の中で、二酸化炭素（CO_2）削減の取組を進めるとあるが、具体的に何を行うのか伺う。 (5)　「富士宮市ゼロカーボン推進戦略」を策定したが、市民にどのように周知・意識付け・参加を促す取組をしているのか伺う。 (6)　小中学校教育の中で「富士宮市ゼロカーボン推進戦略」をどのように取り入れているのか伺う。 (7)　2050年に向けての進捗状況はいかがか伺う。	市　長 副市長 教育長 関係部長
２　これからの農業について	これまで、日本の農業は一つの農家の耕作地を一か所にまとめるのではなく、農地を分散させることで自然災害などの被害を避けてきたという一面もあったようである。 しかし、近年、農業にも省力化や効率化、競争力が求められるようになったため、小規模農家・中規模農家は農地の分散を解消し、地方自治体が主となって取り組む農地集約・大規模化に応じるケースが増えているようである。このような農地の集約により、10年後にはよりスマート農業の技術を活用した農業が推進されると期待が寄せられている。しかし、富士宮市においては難しく思われることから以下伺う。 (1)　農地の集約化をするためには行政の指導が必要であるが、手法はあるのか伺う。 (2)　魅力ある農家を育てるための施策は何かあるのか伺う。 (3)　どの参考文献を見ても必ずスマート農業が出てくる。しかし、スマート農業化は初期費用も大きく一朝一夕には難しいことから、行政として何か手だてがないか伺う。 (4)　都市住民や学童の農業体験、交流、ふれあいの場及び農産物販売等を通じた生産者と消費者との交流を行政主導でできないか伺う。 (5)　一般質問に必ずと言っていいほど質問に上がる、高齢化による後継者問題・耕作放棄地問題に対し効果的な対策は講じられたか伺う。 (6)　気候変動による生産リスク増加にはどのような要因が考えられるか、また対策は考えられるのか伺う。	市　長 副市長 教育長 関係部長